九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

倉橋由美子文学における女性像および女性論についての研究

劉，苗苗

https://doi.org/10.15017/1785343

出版情報：九州大学，2016，博士（比較社会文化），課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏　　名　：劉　苗苗

論 文 名　：倉橋由美子文学における女性像および女性論についての研究

区　　分　：甲

論　文　内　容　の　要　旨

本論文は、倉橋由美子の文学作品における女性像および女性論について考察することを目的としている。とくに、倉橋の小説の女性登場人物のイメージや倉橋のエッセイに見られる女性論の形成に影響を与えたものとしては、シモーヌ・ド・ボーヴォワールの著作などを主に取り上げ、両者の影響関係を論じた。各章の概要は次の通りである。

第一章では、倉橋の女性像の特質の究明の出発点として、小説「夏の終わり」、「蠍たち」、「パッション」、「醜魔たち」、「悪い夏」、「暗い旅」、「犬と少年」などに見られる、人物たちの性的放縦の場面の表現に着目し、それらが、倉橋が親しんだと考えられるギリシア・ローマ神話に見られるおおらかな描写やアルベール・カミュの小説「異邦人」に見られる浜辺の場面の表現と関係があることを論じた。そうした場面にしばしば太陽が登場することは、倉橋が小説家として出発するしばらく前に日本で大きな反響を呼び、倉橋の仏文科時代の恩師である中村光夫が高く評価していた「異邦人」からの影響を示唆するものであると強調した。第一章での考察により、倉橋が造形する女性像の特質は、なによりもその性的な事柄にかかわる言動に顕著に現れることが確認された。

第二章では、小説「蛇」、「貝のなか」、「密告」、「死んだ眼」、「聖少女」、「迷宮」、「婚約」などを素材として取り上げ、同性愛、近親相姦、サディズム・マゾヒズム的な性行為などに耽る人物の言動、あるいは男性の妊娠、性的快楽に無縁な女性の描写などを分析することによって、倉橋が自由で新しい性についての考え方を模索・提示しようとしていると論じた。

第三章では、倉橋の小説に、時代の流行の先駆者として、同時に複数の人間と恋愛をすることを標榜する人物たちが登場する一方で、小説「パルタイ」、「婚約」、「暗い旅」のように結婚反対論者が登場したり、あるいは、小説「結婚」、「妖女のように」、「ヴァージニア」などのように、恋愛結婚にあきたらず、旧来の見合い結婚に逆行する女性が登場したりする、というふうに、倉橋の女性観に多様性あるいは動揺が見られる側面があることを論じた。

第四章では、倉橋の女性論の形成に対するボーヴォワールの著作の影響について論じた。ボーヴォワールの影響が明瞭にうかがえるのは、倉橋の女性論がエッセイの形で表明された「第三の性」に対する「第二の性」の影響であるが、小説としては、ミシェル・ビュトールの二人称小説『心変わり』と同様、特殊な人称形式で語られる「暗い旅」における二人の主人公＜あなたがた＞の関係の背後に、ボーヴォワール「娘時代」や「女ざかり」に見られるボーヴォワールとサルトルの関係が揺曳していることを論じた。ボーヴォワールからの影響の受け方において特筆されるのは、倉橋が主に、生島遼一によるややあいまいな邦訳でボーヴォワールの「第二の性」を読んだ可能性が高く、その結果、ボーヴォワールが、子供を生んで母になることや女の出産という機能を嫌悪しているかのように倉橋が誤解した可能性があり、そのことが、倉橋自身の女性観の形成に影響を与えたという可能性である。この章では、倉橋のテキストとボーヴォワールのテキストを比較対照して、その可能性についても検証し、その可能性は大いにあり得ると結論づけた。

第五章では、「どこにもない場所」、「蠍たち」、「婚約」、あるいは晩年の「アマノン国往還記」な

どに見られる母親殺し、あるいは、わが子を食らう母、といった母親にかかわる特殊な描写を分析し、こうしたグロテスクな表現は、ユングのいわゆる母親の元型「グレートマザー」の両面的性質の一方の性質である、子供を束縛し、飲み込んでしまうというような否定的性質、あるいはフロイトの「同一視」といった考え方から示唆を得たものではないかと論じた。

結論として、これまでの各章の考察をまとめた上で、倉橋の小説に見られる、日本の近代文学でユニークな位置を占める、やや過激とも言える女性描写・女性像は、男性の下で抑圧された女性が自由を求めて、もがきつつ、新しい存在に生まれ変わろうとするプロセスを虚構の形式で表現したものであると述べた。その上で、倉橋の表現には精神分析学者たちの考察も示唆を与えたが、もっとも重要な影響は、同時代に世界的な流行を見たボーヴォワールの著作からの影響であると考えられると強調した。